

5/10/2020 YouTube Live 原稿・能城一郎

タイトル：待ち望め主を

今日は、5月10日、日曜日は、母の日です。このライブ・メッセージの前に、皆さんすでに、山田牧師のお話を聴かれたと思います。この録画の後で、山田先生は、「本来なら、母の日のメッセージをするのだが、父の日の礼拝に、母の日のメッセージを加えようと思う」とおっしゃっていました。2020年の父の日は、6月21日、日曜日です。この日には、晴れやか、清々しい気持ちで、礼拝できることを願っています。

さて、今日のタイトルは、「待ち望め主を」です。先週は、最後に、皆さんと一緒に、賛美をしました。(^^♪「生き生きイエスに主に仕えよ。」、覚えておられると思います。今日も、最後に、(^^♪「待ち望め主を」を賛美いたします。

先週のポイントの一つは、クリスチャンには「生き生きとした希望」の力が与えられている、という確信でした。先週のテレビでは、「出口戦略」ということばをよく耳にしました。確かに、「出口」は近くなっています。しかし、あと何日間、待つのでしょうか。今日のメッセージは、「待つ姿勢」についてです。

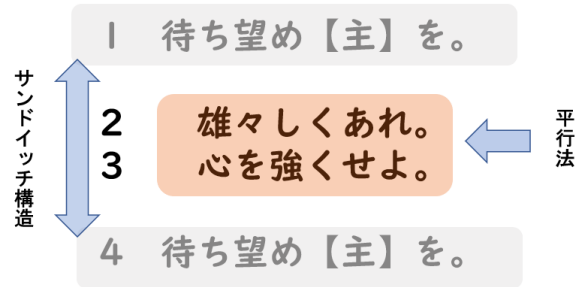
聖書は、詩篇 27 編 14 節です。お読みします。  
(詩 27:14) 待ち望め【主】を。雄々しくあれ。  
心を強くせよ。待ち望め【主】を。

この詩篇は、ポエム、詩、4つのフレーズから出来ています。

パワーポイントを見てください。

## 詩篇27篇14節

待ち望め【主】を。雄々しくあれ。  
心を強くせよ。待ち望め【主】を。



最初のフレーズは、「待ち望め主を」、第2は、「雄々しくあれ」、第3は、「心を強くせよ」、そして、最後は、最初と同じ、「待ち望め主を」です。

この詩文は、旧約聖書の文学の二つの手法で作られています。その一つは、「サンドイッチ構造」です。「待ち望め主を」というテーマが、最初と最後に詠われます。そして、心の奥深くで味わう大切なことば、「雄々しくあれ」、「心を強くせよ」この箇所には、「平行法」が使われています。

「サンドイッチ構造」は、よく日常生活の話でも使われます。「わかった」「お外に出ない」「お部屋にいて」「わかった」・・・これは、最初と最後が同じ言葉、「わかった」が繰り返されます。真ん中の「外に出ない」「部屋にいて」は、ステイ・ホームを強調する、平行法、・・・同じようなことばを繰り返して、大切なメッセージを記憶させるコミュニケーションの話法です。

「文学構造」？「文学手法」？・・・「そんなことじゃなくて、魂に響けば、・・・それでいいのでは、・・・？」と、思われる方もおられるかもし

れません。当然です。私も賛美の作詞作曲をするとき、「構造」とか「手法」など意識せずに、賛美のことばを魂の奥底から主に向かい奏でていきます。

しかし、日本文化の魂とも言われる万葉集を深く味わうには、日本文学の「枕詞」を理解する必要があります。

「神」の枕詞は「ちはやぶる」。「光」は、「ひさかたの」。今日は、母の日です。「母」の枕詞は、何でしょうか？「垂乳根の（たらちね）」です。これが枕詞です。たらちね、このたった4つのことばの響きに、母親へのありがとう、いたわり、ねぎらい、・・・と。普段では口に出来ない、感謝の念を素直で素朴な日本の古代人は、母なる「ガイア」への崇拝をしていたのではないかと思います。「たらちね」「ちはやぶる」「ひさかたの」・・・なる、ことばの響きで感動し、魂に癒しを与えてきたのかもしれない。

文学で言われる「修辞法」に気を留めるには、じっくりとした時間が必要です。文学で魂の滋養をするには、「枕詞」の他、「季語」、また、「花ことば」、さらに、「宝石の石ことば」の学びが必要です。

神のことばである聖書は、「書物の中の書物」、「文学の中の文学」と言われています。

「出口」は近くなりました。今、私たちは、その時を「待ち望まなければなりません」どのような姿勢を持てばいいのでしょうか？神のことばに戻り、詩篇 27 篇 14 節の「待ち望め主を。」で包まれた、「平行法」の箇所注目してみましよう。

「雄々しくあれ」「心を強くせよ」とは、何かを「待ち望む」ためには欠かすことのできないポジティブな心の持ちようです。果たして、今、自分の魂は、「雄々しくあるのか、ないのか」。「心が弱っているのか、いないのか」その判断はどのようにすればいいのでしょうか。

そのヒントをイザヤ書 35 章 3 節に見てみましょう。

「弱った手を強め、

よろめく膝をしっかりとさせよ。」

「手が弱っているなら強めよ」、と自覚症状のある人に対して言われています。また、「膝がよろめいていないか」診断を促しています。こちらの方は、適切な診断をしてもらわなければ分からない部分です。また、預言者のナホム書 2 章 1 節には、「追い散らす者が、おまえに向かって上つて来る。壘を見守り、道を見張れ。腰を強くし、大いに力を奮い立たせよ。」と、「腰を強くし」ということばがあります。人は「腰は大丈夫」と思っても、ちょっとしたことで大きなダメージに襲われてしまうこともあります。「自分は大丈夫。」との過信、あるいは、気のゆるみが、大事に至る事もあるのです。

私達は、この「出口」の先に待っている世界も主と共に歩む者です。もし、「雄々しくなければ」、父なる神様が、雄々しくなるように導いてくださいます。また、もし、「心が強くないなら」、父なる神様が、「心を強めて」くださるのです。なぜでしょう。それは、ヨハネ福音書 1 章 12 節の約束があるからです。

ヨハネ 1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

イエス・キリストの十字架を信じて、私達は、父なる神様の子どもとなったのです。子どもが元気がないとき、親は慰め励まします。子どもの心が弱っている時、それに気を留めない親がいるでしょうか。私達は、全知全能なる父なる神様の慰めのうるわしさ、励ましの力を待ち望みましょう。

ご一緒に、(^.^♪「待ち望め主を」賛美いたしましょう。

(^^♪ 待ち望め主を 雄々しくあれ

(^^♪ 心を強くし、待ち望め主を

お祈りをします。